

# ギャン理論の最新状況

- I. スウィングチャートの変革
- II. ギャン・アングルとスクエア  
(シンメトリー)
- III. 何を捨て去るべきか

# I. スウィング・チャートの変革

1. レベルを変えたスウィングチャート

2. 短期パターンとの組み合わせ

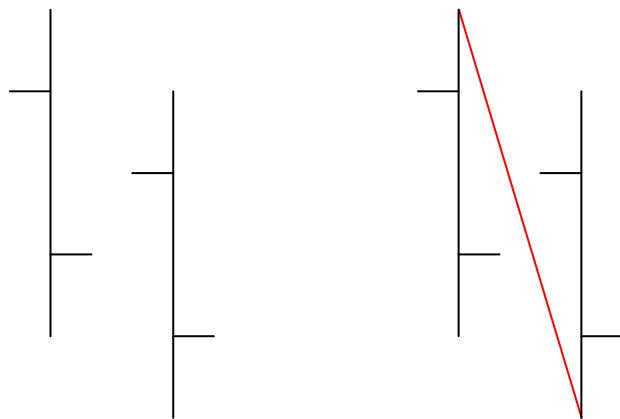
# レベルを変えたスウィングチャートとは

1. ジェームス・ハイアーチェックによる改革

2. 本質は時間によるフィルター

## 具体的には

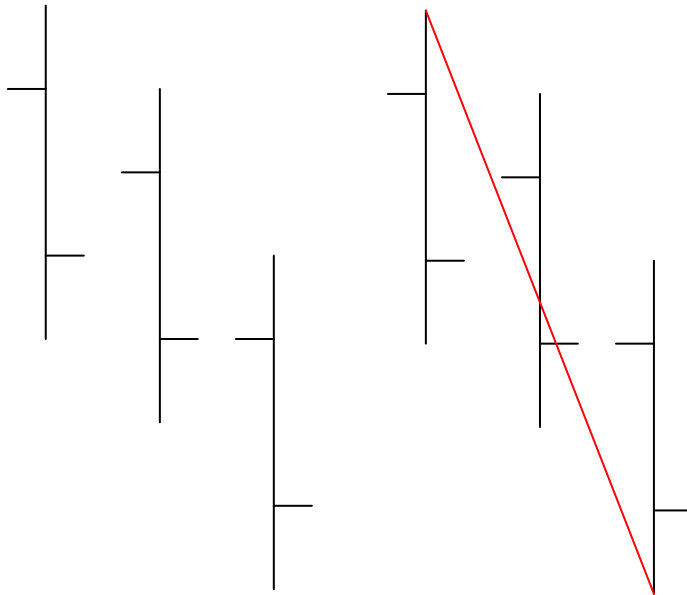
- ①.従来のスウィングチャートを「小勢のインディケーター」（1本バーチャート）とする。



前日のレンジを突破すれば、スウィング・チャートの方向が変わる。

## ②. 「中勢のインディケーター」

(2本バーチャート)

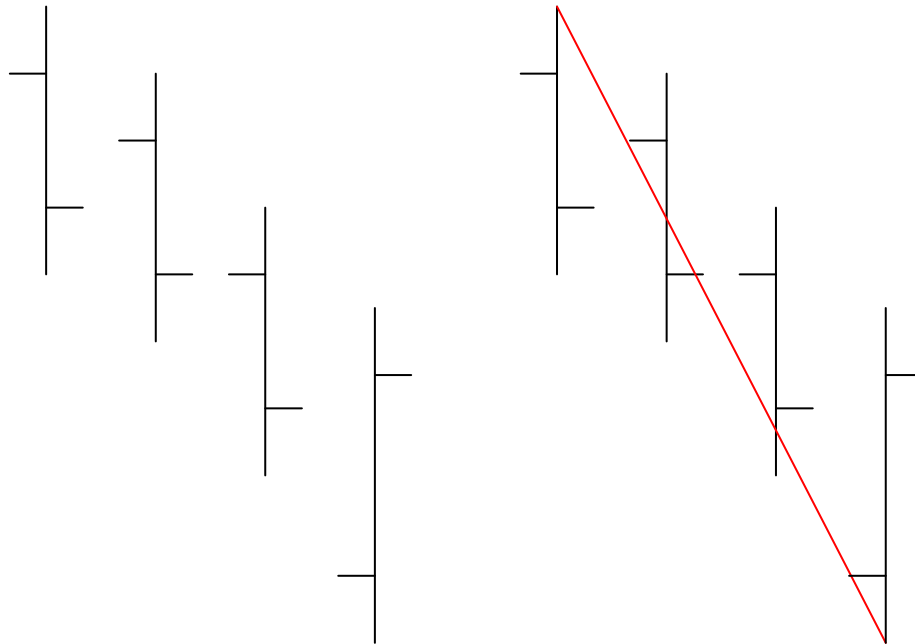


中勢のインディケーター  
2本連続で同方向への突  
破が必要。1本ではス  
ウィングしない。

### ③. 「大勢のインディケーター」

(3本バーチャート)

3連続同方向へのブレイクが必要。



2本ではスウィングしない。

## 具体例①日経平均小勢のスイングチャート



最も速くシグナルを出す反面、いわゆるダマシのブレイクアウトも頻発する。

## 具体例② 中勢スウィングチャート



シグナルが遅くなる反面、ダマシのブレイクアウトも減ってくる。



## 具体例③ 大勢の swings チャート



シグナルを出すのは、非常に遅い。実質このチャートでトレードは不可能。但し、トレンド判定にはもっとも威力を発揮する。

## ◆ポイント

※あらゆる時間枠に有効

※但し、マルチタイムフレームの優位性を確保するのであれば、中勢以下を利用。

※短期トレーダーにとって利用できるタイムフレームは日足以下である。（週足以上ではスウィングが遅すぎて使えない）

## II. ギャン・アングルとスクエア

### 1. 最重要ポイント

ギャン理論による最大のアドバンテージは、時間と価格の均衡の概念。その究極はスクエアである。 ギャン・アングルとはスクエアリングの補助にすぎない。

## 2. ポイント

ナチュラル・タイム・スクエアを使うべきかそれとも過去の重要な高値・安値のスクエアを使うべきか

→メジャー・ムーブを使うべき。ナチュラル・タイムスクエアはカーブフィッティングの可能性が高い。

## 過去の高値と安値を利用したスクエアを利用する場合の優位性と問題点

### <利点>

※過去の相場との比較が容易。

※価格目標のみならず時間目標も出る。

## 過去の高値と安値を利用したスクエアを利用する場合の優位性と問題点

### <欠点>

※厳格にはスクエアリングにならないケースが多い。←レクタングルではあっても、スクエアではないから。

# 高値と安値を使ったスクエアリングの実例①



① 重要な安値と高値と特定。（赤矢印）

② 次にスクエアを作る。

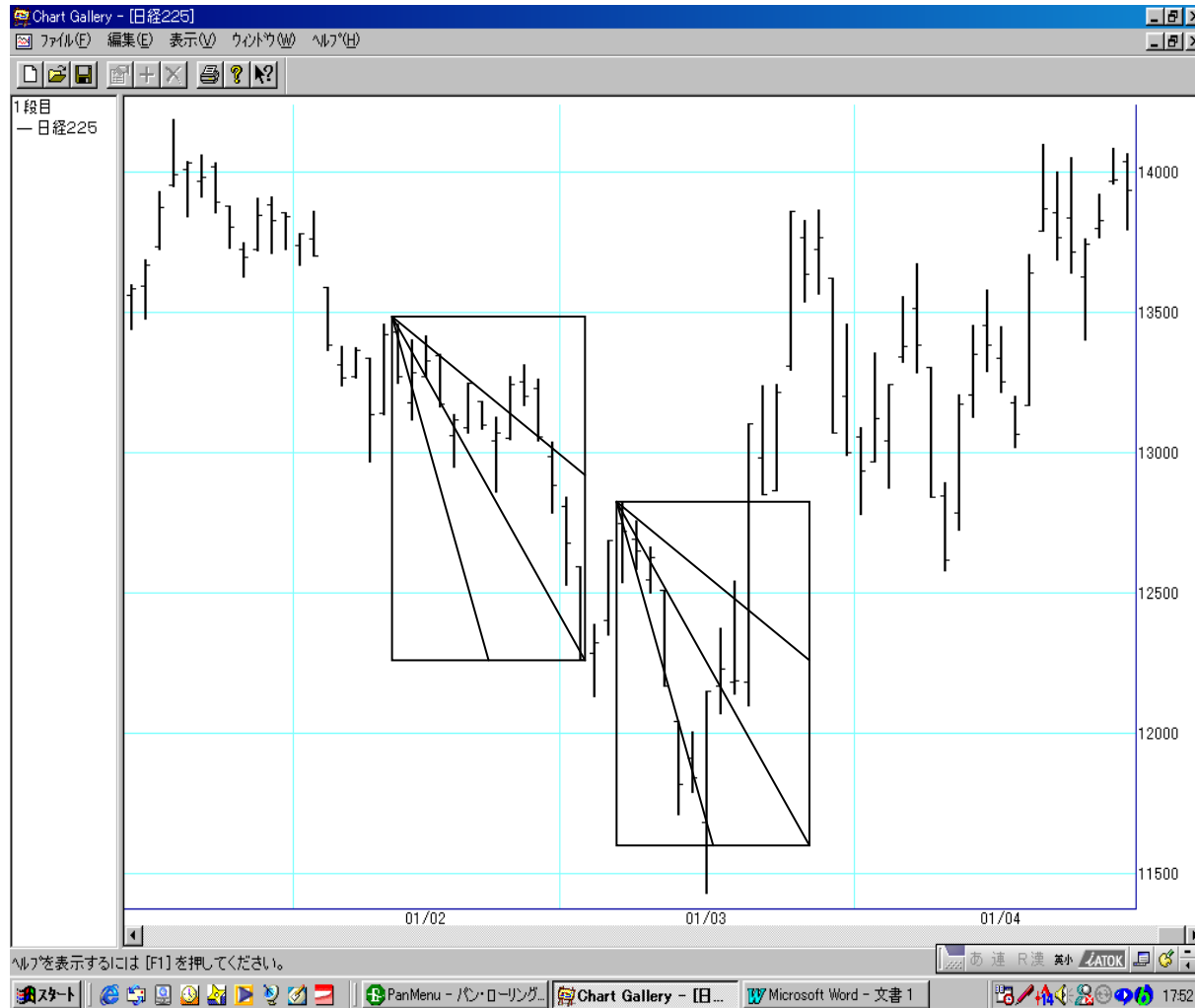
③ 補助的に対角線と1/2,2/1アングルを引く。



スクエアの作り  
方にはっきりし  
たルールがある  
わけではないが、  
自分の建玉タイ  
ムフレームの倍  
～3倍程度が現  
実的。



### 3. スクエアの利用法



戻り高値から短期反転を確認する。高値パターンを当てはめる。時間・価格目標と到達パターンを見極める。



# 大きなスクエアを作ってトレンド転換をシンメトリーで確認する



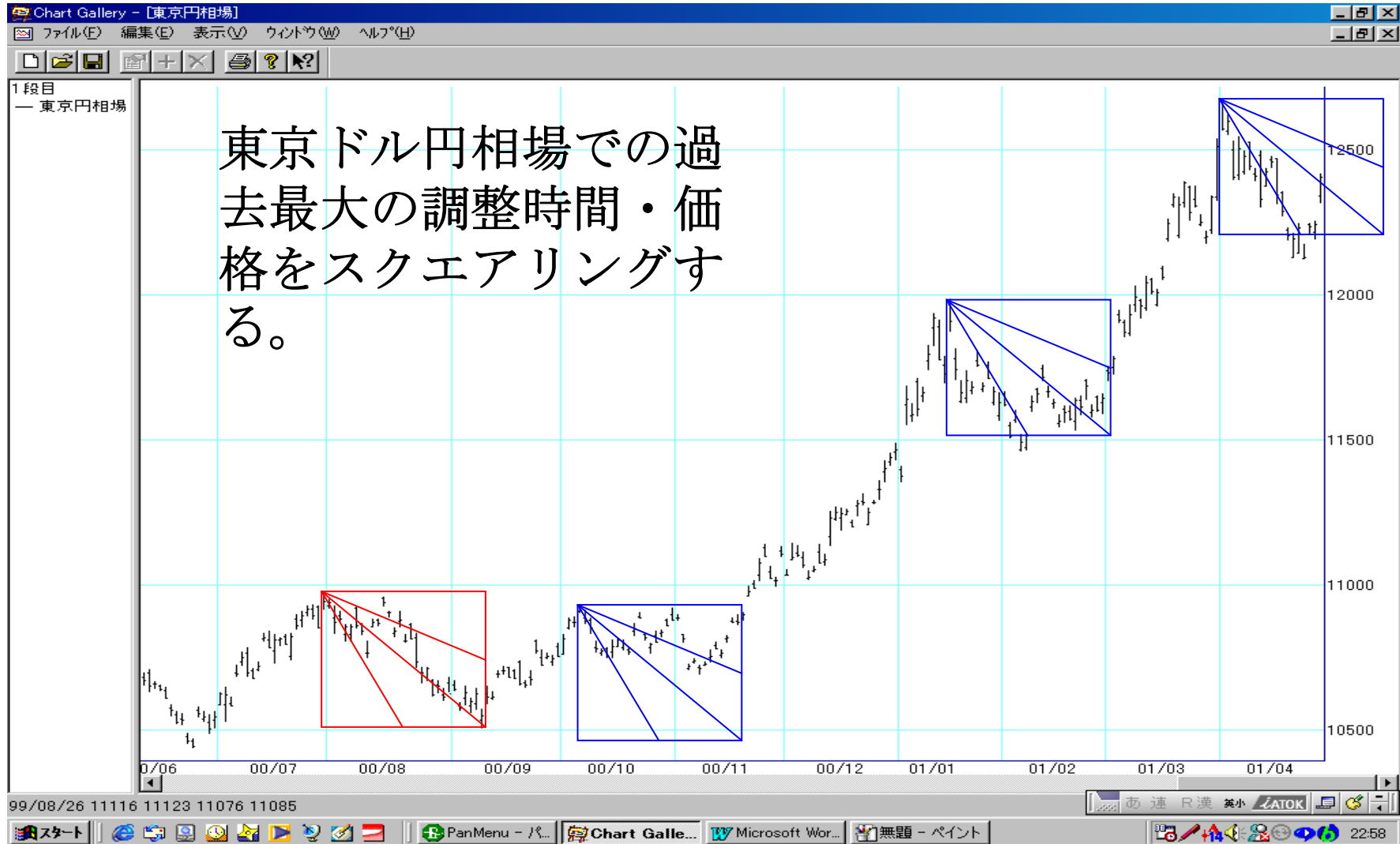
シンメトリーが確認されたので、より大きなレンジのスクエアを作成する。ダウントrendが1X2であったのに対して、上昇が1X1であることに注意。

トレンド反転の可能性が高い。

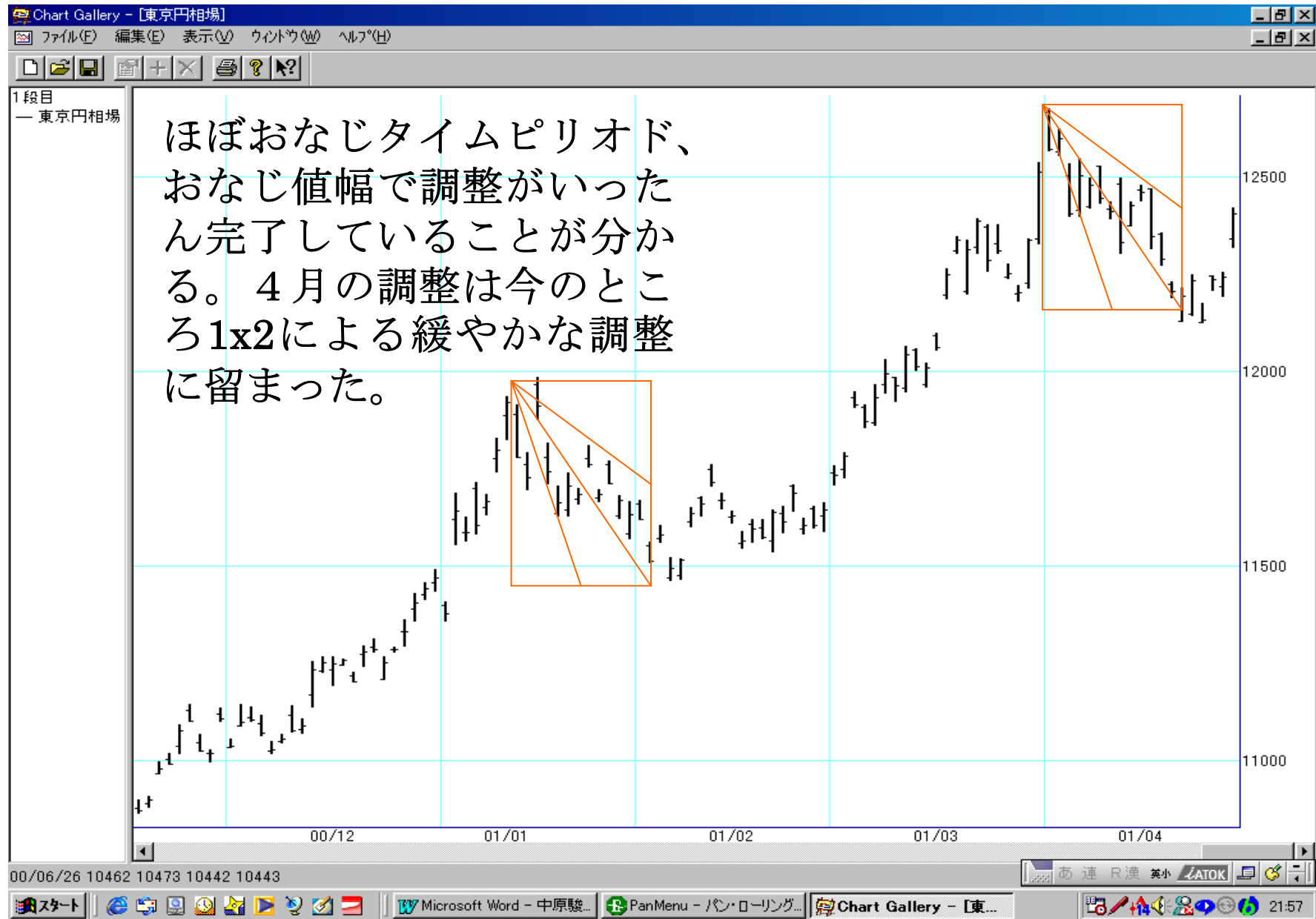
## 4. オーバーバランスインディケーター

トレンドの反転を確認するための、スクエアでカウンタートレンド（戻り）の値動きをスクエアにしたものである。時間・価格がこのスクエアを超えればオーバーバランスが発生し、少なくともメイントレンドは終了し保合に入った可能性が高まる。

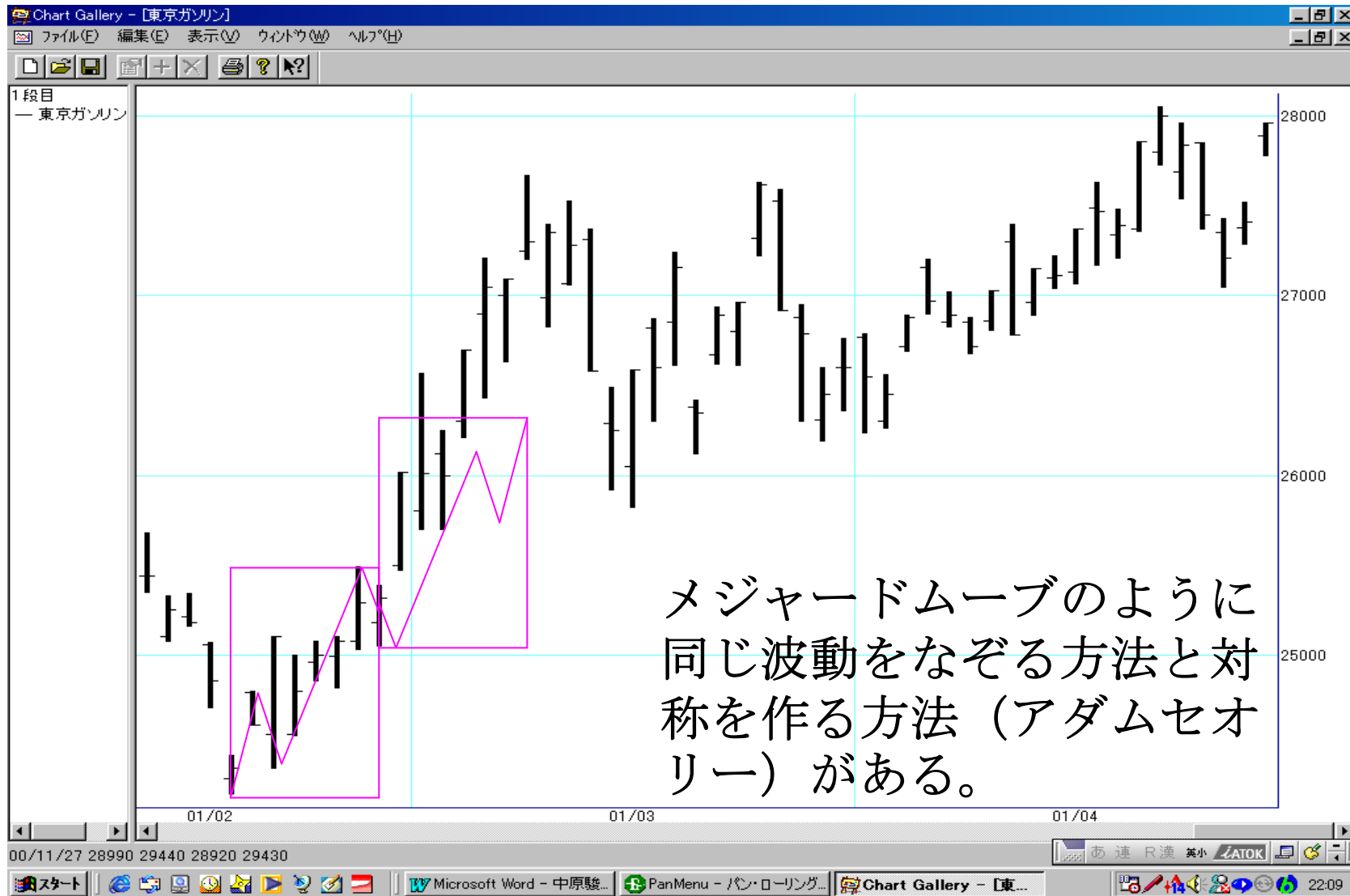
# 5. オーバーバランス・インディケーターの作成法





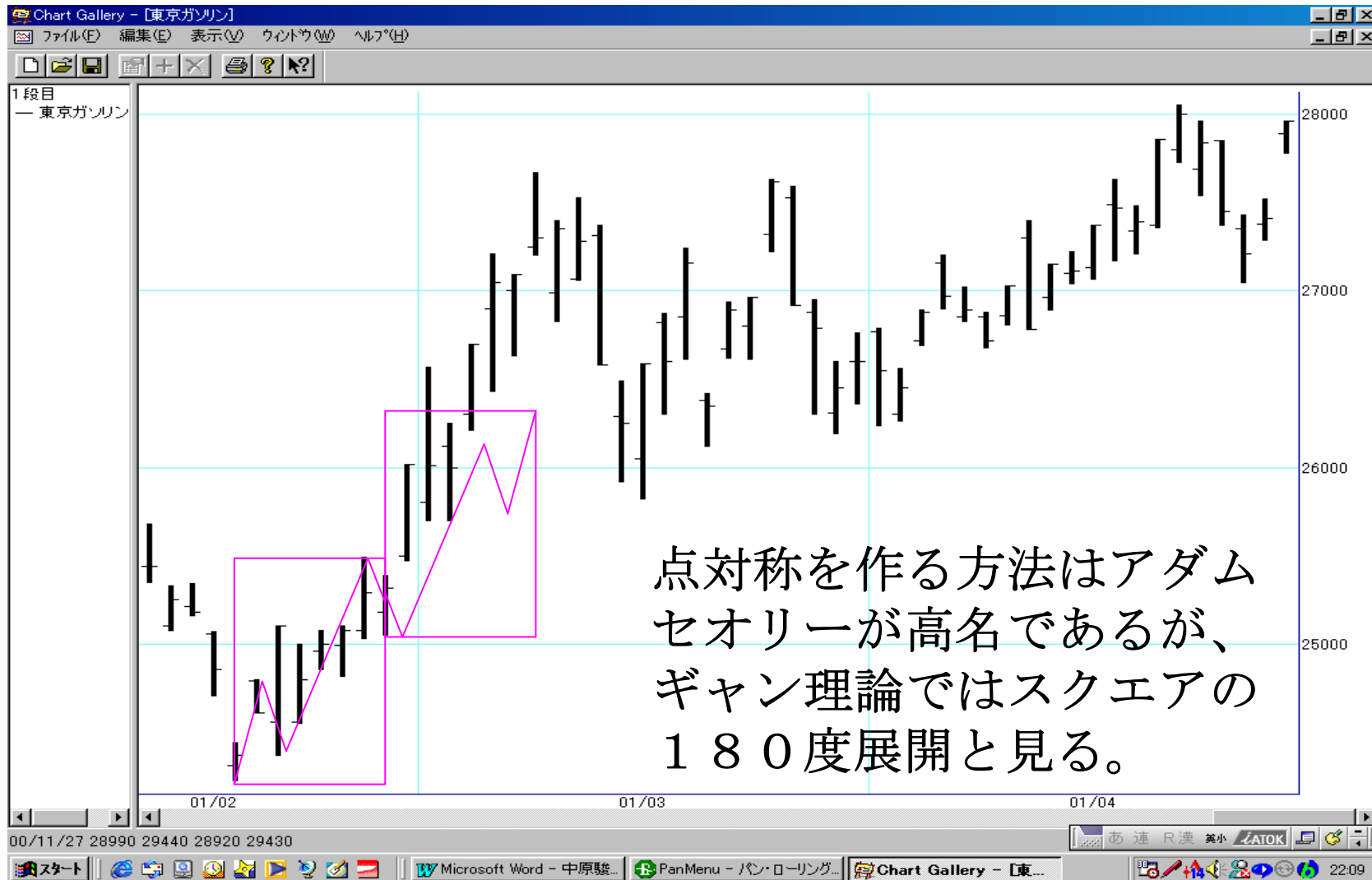


# 7.波動のスクエア ①反復





## ②点対称



### ③シンメトリー（左右対称）



トレンドを形成するパターンにおいても、調整がその初期段階においてはトレンドとほぼ同じ波動を描いている点に注意。

調整をブレイクする日柄、波動の違いに注意。

### Ⅲ. 何を捨て去るべきか

—短期トレーディングの観点から—

- ①正しい縮尺で書けないならば一連のギャン・アングル、ナチュラル・タイム・スクエアは利用すべきではない。
- ②集中するマーケットと関連する星（星座）の動きに信頼が置けないのならば占星術も不要。
- ③ おなじような意味で数秘術、数のスクエアも参考程度にとどめるべき。

## 実践で利用できるテクニック

- ① スウィングチャートのレベル変更は十分使える。ただし、メイントレンドインディケータはトレンドの確認程度とすること。
- ② スクエアリングのテクニックは、カーブフィットの可能性が高いことを承知の上で利用すること。
- ③ オーバーバランスインディケータや波動のスクエアは有効と思える局面のみで利用し、闇雲に当てはめない。必ず破綻する。